



ま い は と
MYはと

見つめたい
自分の
気持ち



11月5日(月)に開催された、老人クラブ連合会若手委員会主催の「紅葉と歴史探訪」の様子です。

飯盛山と鶴ヶ城にてボランティアガイドさんの案内のもと、会津の戊辰に関わる歴史を学ぶことができました。

私達も「社協」を
応援しています

当社協は住民の皆さんに会員としてご協力いただいておりますが、企業・団体の方々にも法人会員として応援していただいております。

尚、本年度もご賛同いただき
ました事を併せて報告し、法人
会員の皆さんをご紹介します。

会津よつば農業協同組合湯川支店

合資会社 扇屋酒店

有限会社 佐野園芸

有限会社 田部塗装店

株式会社 不二コントロールズ

会津造園緑化 有限会社

有限会社 佐野自動車工業

有限会社 大八木商店

小
野
屋

日東ユメックス株式会社

有限会社 あいづ総合印刷

順不同・敬称略

**新規会員登録を、
随時募集しております。**

□発行口 社会福祉法人湯川村社会福祉協議会 / 〒 969-3544 福島県河沼郡湯川村大字清水田字川入 8
でんわ (0241) 27-8890・ファックス (0241) 28-1056

ふれあいネットワーク

〈Eメールアドレス〉yushakyo@atlas.plala.or.jp
 〈ホームページ〉http://yugawa-shakyo.or.jp

「湯社協だより まい・はーと」の作成経費には、共同募金配分を使用させていただいております。

年頭のごあいさつ

社会福祉法人 湯川村社会福祉協議会

会長 一条 秀 人



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。
 昨年は、住民の皆様方の温かいご支援・ご協力により地域福祉活動や介護保険事業を中心とした福祉サービスの適切な運営と質の向上に努めることが出来ましたこと衷心より感謝申し上げます。

さて、ご承知のように近年福祉を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、少子高齢化の急速な進展や核家族化に伴う家庭・家族の介護力の低下など、様々な要因によりこれからの地域福祉の在り方が問われる時代となっています。

特に、認知症高齢者や一人暮らしの高齢者世帯が増加傾向にあり、地域社会や家族が変化する中、介護保険では対応できない生活支援ニーズや社会的孤立、貧困等を背景とする深刻な生活課題が顕在化しております。

こうした課題への対応にあたっては、公的な制度に基づくサービス・支援のみでなく、常に地域の人たちと共に支え合う地域づくりが重要なポイントになることから、当協議会としても、支援の必要な方が住み慣れた場所で自分らしく暮らし続けることができるために、豊かな人間関係のもと住民と専門職が協働して支援体制づくりや生活困窮者への支援の仕組みづくりに向け、住民の皆様方をはじめ村行政並びに隣接町村社会福祉協議会や関係団体と連携して、更なる努力をして参ります。

本年も明るい地域社会実現のため、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様方のご健勝・ご多幸を心からご祈念申し上げまして新年のご挨拶と致します。

ご寄付
ありがとうございました

十一月二十六日に浜崎壮健クラブ会長の櫻井憲幸様が本会事務所に来所され、十一月二十三日に開催された感謝祭のバザー売上金二万円の寄附を頂きました。



社会福祉向上に役立たせて

いただきます。



*** デイサービスセンターだより ***

秋の園外活動

10月中旬に、磐梯町慧日寺及び磐梯道の駅へ行って参りました。
天候にも恵まれ、少し肌寒い気温ではありましたが、利用者様は楽しまれた様子でした。



今回お手伝い頂きました
日赤奉仕団の皆様、実習生
の方ありがとうございました!

★湯川村居宅介護支援事業所より★

現在、介護保険法において自立支援の強化が求められています。

自立支援とは『その方の目的を達成するために、足りない部分を人の力を借りることで生活の質を向上させること』とされております。

自立を阻害している要因として転倒があります。転倒を経験した人は、精神的ショックを受け、転倒を恐れて家に閉じこもりがちになるなど、以前の様に活動的な生活が送れなく場合があります。自宅内で転倒する危険度は自分が思っているよりも3倍危険だと言われています。頭部を打った場合は数日後に症状が現れることがありますので注意が必要です。そこで、ケアマネから見た自宅内で転倒を防ぐための方法を紹介します。

杖	→	本人の状態に合った杖、歩行器を選ぶ。
ルームシューズ	→	歩いている時に脱げて転ばないようにかかとまで覆うものにする。
段差・コード	→	段差でつまづかないようにスロープを設置する。 コード類は安全な所にまとめておく。
ベットルーム	→	寝ている時に落ちないようにしたり、起き上がる時にバランスを失わないように手すりや柵を設置する。
トイレ	→	座る時や立ち上がる時にバランスを失わないように手すりを取り付ける。
風呂場	→	濡れたタイルで滑らないように滑り止めマットを敷く。 安全に浴槽に入るため手すりを取り付ける。
階 段	→	安全に上り下りできるように、壁に沿って手すりを取り付け、足元にライトを設置する。
ソファ・椅子	→	つかまって立ったり座ったりできるようにひじ掛けがあり、座面があまり沈み込まず重さがある物にする。

上記のようにちょっとした工夫や手すりを利用することで転倒を予防することが出来ます。手すり、杖、歩行器は本人の状態に合ったものを選定できるように福祉用具の専門職による助言を頂き、介護保険の福祉用具貸与や住宅改修を利用することが出来ます。

お問い合わせ・ご相談は

湯川村居宅介護支援事業所（湯川村デイサービスセンター内）

で ん わ 0241-28-1588

担当 小林トモイ／渡部 恭子

ファックス 0241-28-1586

2019 年も湯川村居宅介護支援事業所をよろしくお願いします。



～ ひとりの「ちょっと」が地域の力に ～

みんなの力を集結する取り組み「生活支援体制整備事業」始まる！

湯川村では、「協議体」を「さすけね会」と名付け、平成 30 年 3 月より毎月 1 回（第 3 水曜日、14 時～、村高齢者コミュニティセンターにて）開催し、話し合いをしています。

今回は、これまで協議体「さすけね会」で話し合いになった内容をお伝えします。



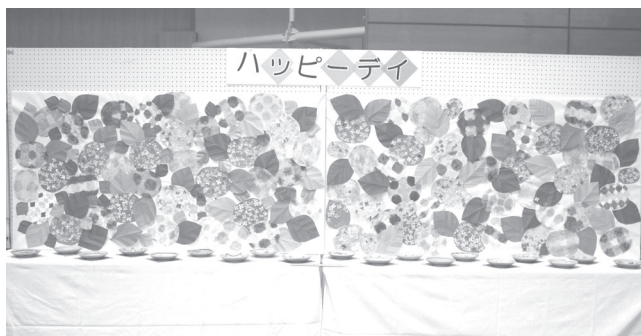
第 1 回	- 生活支援体制整備事業について - 今後の協議体の運営・あり方について
第 2 回	地域でやっていること・行われていること
第 3 回	～人の集まっているところはどこか。→マップづくり
第 4 回	ちょっとしたことを頼む人がいればいい。
第 5 回	電球の交換、ガスがつかない、水が止まらない、電話が不通、缶や蓋が開けられない…など
第 6 回	→ 他の地域での取組状況について → 自分たちの地域での状況 → もし、自分の地域で助け合い活動を行うとしたらどうか。どんなことができるか。 やり方やすすめ方はどうしていったらよいか。
第 7 回	自分たちはどう考える？
第 8 回	
第 9 回	



自分の 10 年後を現時点で考えるのは難しいところがあります。ましてや、自分が認知症になったらどんな生活がしたいか…なかなか答えが出ません。しかし、間違いなく時間は経過し、必ず 10 年後がやってきます。その時、自分の望む暮らしができたらいいいですね。そのために今、自分ができることは何だろうか。できないこと…それをできるようにするにはどうしたらよいか。一緒に考えていきましょう。

ハッピーデーのコーナー

ハッピーデーでは、今年の村の文化祭に、染め紙で作った「あじさい」と本郷の「酔月窯」で絵付けした皿を出品しました。見ていただけたでしょうか？



紙を染める作業はとても楽しく、絵の具への浸し方により染まり方が違い、その違いにも感動しながらの作業でした。

皿の絵付けも、初めての方が多く、絵を描くのも苦手という方もありましたが、とても素敵な皿が出来上がってきました。

第15回グラウンドゴルフ大会

9月11日(火) 村営野球場において第15回グラウンドゴルフ大会が開催され、会員34名が8ホール2ラウンドによる熱戦を繰り広げました。

天候に恵まれ3年振りの屋外での大会であったこともあり、グラウンドいっぱい伸び伸びとプレーする姿が見られました。

今年は特に好プレーが多く見られたことが印象的で、会員同士交流を深めながらグラウンドゴルフを楽しんでいました。また、今年は11名がホールインワンを出し大会を盛り上げました。成績上位の方は次の通りです。

男性の部

優勝 渡部吉榮 40打
第2位 村沢良一 41打
第3位 五十嵐稔 41打

女性の部

優勝 桜井カツヨ 43打
第2位 風間いく子 49打
第3位 篠竹美恵子 51打



戊辰 百五十年 史跡研修

にちなんだ

11月27日(火) 村教育委員会社会教育係 梶原文子主査を講師にお迎えし、講話と視察の2部構成で史跡研修が開催され、21名が参加しました。

講話では『湯川村史から見た戊辰の足跡』をテーマに、年表と照らし合わせながら本村に関連した出来事を学びました。

視察では、米沢藩が駐屯し、若松開城の要となった森台地区内を歩いたり、佐野地区において田辺軍次のご子孫の話しを伺ったり、開城への道のりを切り開いた勝常地区の肝煎のお墓を見たりと村内に残る戊辰の足跡を見て廻りました。

座学だけではなく、実際に現地に行くことで昔の記憶の呼び戻しや新たな発見に繋がると共に、先人達が遺した本村における戊辰の足跡を巡る良い機会となりました。



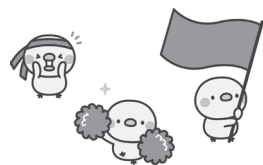
歴史を学びました



先人も歩いた道



第40回スポーツ大会



10月31日(水) 村体育館において、第40回スポーツ大会が開催され、総勢約100名の選手並びに応援者が参加しました。

今年は、ニユースポーツのトリコロキューブを利用して、サイコロが止まったシートの面の数字の合計に年齢の高いクラブ順に年齢加点をし、高い年齢層の方が優位で気兼ねなく参加できる新種目を設けました。

大会は6地区クラブ対抗で行い、新種目を含め9種目で優勝を競いました。最後は大逆転のチャンスとして新種目と玉入れでは大きなボーナス点があることから、例年以上に白熱した大会となりました。

今年は1種目から1位を守り続けていたクラブが優勝かと思われましたが最後の玉入れのボーナス点で浜崎壮健クラブが逆転し、2年連続の優勝となりました。また、応援合戦では、お揃いのTシャツや手作りの旗・鳴り物を使った応援で大会を盛り上げた浜崎壮健クラブと勝常南部老人クラブが応援賞に選ばれました。

成績は次の通りです。

優勝	勝 勝 浜崎壮健クラブ	47点
準優勝	筈川鶴寿会	46点
第3位	勝常中部老人クラブ	41点
第4位	北部交友会	39点
第5位	勝常南部老人クラブ	32点
第6位	筈川幸寿会	30点



新種目「サイコロ転がし」より



「キン転がし」より



「ケツ圧測定」より

優勝した浜崎壮健クラブのみなさん



応援も盛り上がりました



湯川村役場にて

ふきん 未使用タオル 贈呈事業報告

会員のみなさんより集まった、ふきん26枚、タオル245枚、ぞうきん11枚の計282枚は、11月7日(水)に連合会役員で村内の公共機関、福祉施設へお届けしました。

毎年、大変喜んで頂いております。会員のみなさん、ご協力ありがとうございました。

自赤レポート

本部役員改選

今年の総会において本部役員が改選され新体制となり、さまざまな活動を展開しております。

なお、本部役員は次のとおりとなっております。

委員長	鈴木 悦子
副委員長	小林 悦子
同	小野ツギ子
監事	磯部 誠子
同	渡部 伸子



奉仕活動

本団では、毎月一回、村内の幼稚園や福祉施設を訪問し、奉仕活動を行っております。

活動内容については、事前に施設の方々と打ち合わせをし、雨にも風にも夏の暑さにも負けず団員で出来ることをさせていたいただきました。



視察研修会

11月12日(月) 参加団員16名で、日本赤十字社福島県支部(福島市)を視察し、深谷組織振興係長より日本赤十字社の事業説明や献血センターの見学をして参りました。

帰り道では、大玉村のスイーツ店に立ち寄り生キャラメルの味見をしました。



今回は赤十字奉仕団この一年を振り返ってみました。

赤十字の活動を支えるボランティア、それが「赤十字奉仕団」です。

人や社会に貢献するため、様々なボランティア活動を通じてみなさまに赤十字の目指す人道を広めこれからも歩んでいきたいと思ひます。

